

シグマ研究委員会

第4回核融合核データワーキンググループ会合議事録

日 時：昭和58年2月3日 13:30~17:00
場 所：原研東海研 研究2棟335号室
出席者：村田 徹 (NAIG), 真木 紘一 (日立), 田中 茂也, 浅見 哲夫,
中島 豊, 前川 洋, 関 泰, *長谷川 明, **鈴木 友雄 (原研),
神田 幸則 (九大)

* 招待者 ** オブザーバー

配布資料:

1. 前々回, 前回議事録 (案)
2. How to produce group constants (長谷川)
3. Summary of workshop discussions on the JAERI-USA cooperation on fusion blanket neutronics (Draft)

議 事:

1. 議事録確認
2. 群定数作成について (長谷川)

測定核データの収納システム, EXFOR-Format, 評価中性子データライブラリー, ファイル, それらの具体的内容並びに群断面積作成に際しての共鳴領域の取扱い, ドップラー効果の考慮, 平均操作, 2次元データの取扱い, 実効断面積計算, そして, これらに用いる計算システムについて資料を基に詳しい説明があった。

評価データの収納は処理法に合う形で入れるという要請が強い。

3. 次年度活動計画の検討

- 1) 核融合炉用核データに関連した状況説明 (浅見)

JAERI-USA 共同によるFNS実験計画解析に日本側固有の核データセットが早急に欲しいという要請がある。

核データセンターとしての対応策が検討されている。対象はH, ${}^6\text{Li}$, ${}^7\text{Li}$, C, ${}^{16}\text{D}$, Cr, Fe, Ni, Mo, (Al, Be, Pb)である。JENDL-2で対応できないで, かつ, 緊急なものは ${}^6\text{Li}$, ${}^7\text{Li}$, ${}^{16}\text{O}$, である。

なお、同共同実験計画の内容、必要な核データについて、前川、関両氏からの補足説明があった。

2) ワーキンググループの対応

本グループの活動方針に合致するので積極的に協力する。

- a) ${}^6\text{Li}$, ${}^7\text{Li}$: 核データセンターの柴田氏が評価する予定なので、それに村田氏が協力する。柴田氏には次年度委員として本グループに参加を要請する。
- b) ${}^{16}\text{O}$: 早急に実験データ評価値を調査検討するサブワーキンググループ(田中, 浅見, 中島, 村田, 神田)を作った。

4. 新委員の参加要請

国内における核融合ニュートロニクスの活動に対応するため、明年度の新委員参加を東北大、阪大に要請する。活動状況からみてメーカーへの要請はしない。

5. 次回会合予定

サブワーキンググループ 3月9日(水) 13:00